

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	形成・口腔顎顔面外科学 Plastic, oral and maxillofacial surgery	DM_1439	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
板橋	◎小室 裕造 福積 聡 大河内 真之 (病院教授) 市ノ川 義美 (病院教授)	堂後 京子 (病院准教授)	山岡 尚世	福場 美千子	
-					
-					

	形成・口腔顎顔面外科学Ⅰ（1年次）				形成・口腔顎顔面外科学Ⅱ（2年次）				形成・口腔顎顔面外科学Ⅲ（3年次）			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	頭蓋顎顔面外科領域を中心とした体表の各種疾患とその治療法について学ぶ。先天異常では口唇口蓋裂、耳介形成異常、頭蓋縫合早期癒合症、そして多合指(趾)症などの治療方針を理解する。創傷治癒のメカニズムを理解し、急性及び慢性損傷の診断、治療ができるようにする。				外傷に関して、創傷治癒のメカニズムを理解すると同時に、新鮮外傷および難治性潰瘍の治療法を身につける。代表的先天異常の治療方針を理解し説明できるようにする。植皮、皮弁などの理論を理解し代表的皮弁を拳上できるようにする。				植皮、各種皮弁などの再建外科の基本を理解し形成外科専門医、口腔外科専門医としての基本的知識を習得する。代表的先天異常の治療に参加しその流れをつかむ。急性、慢性損傷の治療に参加し治療法の理解を深める。再生医療につて基本を理解する。			
到達目標	「形成外科」 ・急性・慢性損傷の病態を適切に診断し治療できる。 ・皮膚・皮下腫瘍の診断治療を適切にできる。 ・先天性体表異常を適切に診断し治療計画を立てることができる。 「口腔外科」 ・歯科口腔外科外来にて的確な診断・治療ができる。 ・病棟において、適切な患者管理、処置ができる。				「形成外科」 ・組織移植の基本を理解し、実践できる。 ・外傷、難治性潰瘍の治療を適切に行える。 「口腔外科」 ・基本的な口腔外科手術を的確に試行できる。 ・歯科口腔外科救急疾患に対して、初期対応ができる。				「形成外科」 ・再生医療の基本を理解し、現況を述べることができる。 「口腔外科」 ・再生医療の基本を理解し、現況を述べることができる。			
事前事後学修	次回の授業範囲を予習し、専門用語について調べておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				次回の授業範囲を予習し、専門用語について調べておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				次回の授業範囲を予習し、専門用語について調べておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 50% レポート 50%				受講態度 50% レポート 50%				受講態度 50% レポート 50%			

■主な演習(講義・実習含む)

	形成・口腔顎顔面外科学Ⅰ (1年次)	形成・口腔顎顔面外科学Ⅱ (2年次)	形成・口腔顎顔面外科学Ⅲ (3年次)
板橋	木 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00 形成外科疾患の診療と治療	水 曜日 13 : 00 ~ 15 : 00 外来手術	月 曜日 13 : 00 ~ 15 : 00 褥瘡、難治性潰瘍治療
	木 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 中央手術室手術(形成外科)	木 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00 形成外科疾患の診療と治療	木 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00 形成外科疾患の診療と治療
	金 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00 症例検討会(口腔外科)	金 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00 症例検討会(形成外科)	金 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00 症例検討会(形成外科)
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

標準形成外科、TEXT形成外科

その他履修上の注意事項

希望者には国内留学、また海外留学を認める。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	人体病理学・病理診断学、外科学系、運動器再建・再生学、皮膚科学、耳鼻咽喉科学など関連領域を1科目以上、3か月コースまたは講義・演習コースにて履修する。
	共通科目	救急医学特論、整形外科特論、外科学概論

関連する専門医資格

形成外科領域専門医(初期研修終了後4年)
日本創傷外科学会専門医(上記取得後3年)
日本口腔外科学会専門医(卒後6年以上)

キャリアパス(モデルコース)

